

「若人の園に飛翔せんと欲して」

22 生 太田 かすみ

最後に、その高校2年当時に私が詠んだ歌を一首。

「オオタと話していると、親父と話しているような気になる」

この言葉、まさに青天の霹靂。

母親と言うならば良い。祖母でも悪くはない。しかし親父とは何としたことか。彼女曰く、

「どこかくたびれている。言うことがいちいち説教じみている。覇気がない」

なるほど、確かにその通り。澁刺とした、いわゆる「若者らしさ」がないことは十分自覚していた。

しかしながら、同級生からこう指摘された高校2年当時の私には、少なくとも今よりは、若さがあったのではなかったか。大学に入って数ヶ月が過ぎようとしている今、私は更に親父化の一途を辿っているように思われる。

キャンパスを見渡せば若者の活気があふれている。誰も彼も青き春を謳歌している。

自分の立場を忘れて思う。羨ましいことこの上ない。

私を親父呼ばわりした彼女は、しかし、私が若者らしい振舞いをすれば「らしくない」と咎めもしたものだ。この数ヶ月間、強いて若者らしくやっては来たものの、どうも無理があるようである。

それならば、親父でも良いではないか。若者らしくない若者でも良いではないか。世の親父様方とて、夢を持ち、希望を持ち、日々努力されているのであろうから。

わびつつも詠み出だしける歌、

吾にのみ人より辛苦多きにや試練なるよと君は笑えど



突然の電話 浮かれる私と いつもより少し オシャレなランチ
質問攻めも そんなに悪くはない 満たされてる お腹とココロで

鳴らない携帯 それでも日々は流れ 時計は時を 奏でてく
零れる溜息 失速するハートに 真夜中のファミレス 口軽くする

どうしたいの? どうなりたいの? 気持ちはどこにあるの?
自問自答 繰り返して 閉じた瞼の裏にいるのは…

近すぎた距離感 だから逆に遠かった人 あなたなの?
憧れと尊敬 受け止めてくれる安心感 見えない糸の先

どんなに悩んでみても 分からないこの胸の奥 深いトコロ
どんなに悩んでいても お腹は空くから 糖分補給は必要で

考えれば考えるほどに 出られなくなってくグレイゾーン
そして逃げ出す先は ヘッドフォンから流れるメロディー

動きださなきゃ 何も変わらないことを 知っていながら
動き出すことで 何か失うことを 恐れているのかな

何かのせいにして 時間に追われているフリをして

その場しのぎの先延ばし 長くは持たないとしても 今は

忙しさの中で いつしか考えることもしなくなって
気付いたときには たいいて埋っちゃってる隣 指定席

そんな後悔を 生かせないままで 振り回されている
私 まるで マリオネット 繋がれた 切れない赤い糸

掴めない あなたの気持ち 思考回路 パンク フリーズ
コントロールできない 糸にただ 導かれるままに 踊る

「今」が不満なわけじゃない 確かにある充実感 だけど
幸せな顔 近くで見ると 「私も」って 欲張りになる

頭ん中 ぐるぐる回る 誰かの声と 見覚えのある 左の横顔
心が叫んでる答えに きっと私は 気づいてるのに 何故?

立ちすくんで ただ眺めて 眩しさに 目を細めて耐えて
言葉にできない 開いた口から 声にならないから

星に願いを込めた私… 月明かりの下 マリオネット

大学に入り、毎日が刺激の連続である。様々な学部行事もあり、実習があり、講義がある。それらは私の生活にメリハリをつけてくれる。だからこそ、ちよつと考えてみた。

私たちは、色んな人と出会う、色んな考えと出会う。劇作家・詩人である寺山修司は「生きることは出会うこと」という言葉を残した。まさにその通りなのだろう。そして、それが学ぶことなのではないかと思う。

学ぶことが行動に何らかの影響があるとすると、行動すればその分、視野は広がる。視野が広がれば、今まで見えなかった違う世界が見える。しかし、世界の景色は変わらないはず。

それは自分が変わったから、周りが違った景色に見えるのだろう。つまり、学ぶことは自分が変わることである。

多くの人は、「年長者の説教じみた話は聞きたくない」と言うが、少なくとも経験則から紡ぎ出された言葉達は、道標を失った私達に1つのヒントを与えてくれているのではないか。それを活かすか活かさないか、それが賢さに繋がっていくのだと思う。

高校の時の担任の話で、印象的な言葉がある。

「様々な体験は『思い出』という名の『情報』データ』。これをどう料理して、どの情報と関連づけて立体交差点を見出だすのか。これが明日の自分の賢さの素になる」

うる覚えのため、所々間違いはあるだろうが、要旨は間違っていない

はずである。この話は、高校生の私には難しすぎて、何を言っているのかわからなかった。しかし、今になってその意味が少しは理解できたように思われる（自己満足かもしれないが……）。

人生の夏休み、と言われる大学生のうちに、様々なものに出会いたい。8月上旬、講義の一環で韓国の大邱まで実習に行ったが、今までとは考え方が180度変わった。そこでできた友達ともメールをしているが、拙い英語でも気持ちは通じる。こんな出会いをくれた先生方には感謝をしなければならぬ。

今まで偉そうに書いてきたが、僕がこんなことできる人間であるはずがない。あくまで、雑感。感じたことだ。願わくば、そうなりたい。台風の中、韓国から帰国するフェリーで揺られながら、そう思った。

